

## 物理療法についての発表動向

○鈴木 貴司<sup>1, 2)</sup> 藤原 祥了<sup>2, 3)</sup> 深井 伸之<sup>2, 3)</sup> 岸 秀和<sup>2)</sup> (1) 墨田支部<sup>2)</sup> 日本柔道整復接骨医学会物理療法分科会<sup>3)</sup> 東京柔道整復専門学校)

キーワード：介護予防、機能訓練指導員、転倒、地域支援事業  
はじめに

平成 26 年度第 23 回日本柔道整復接骨医学会学術本大会より平成 30 年度第 27 回日本柔道整復接骨医学会学術本大会、5 年間における物理療法に関する一般口頭発表およびポスター発表を考察した。

第 23 回平成 26 年度開催地東京都、第 24 回平成 27 年度開催地新潟県、第 25 回平成 28 年度開催地宮城県、第 26 回平成 29 年度開催地大阪府、第 27 回平成 30 年度開催地愛知県。の五ヶ所で開催された。

平成 26 年度一般口頭発表計 4 演題、内訳は超音波療法 1 題、低出力パルス超音波療法 1 題、介達牽引療法 1 題、アイシング治療について 1 題、ポスター発表、計 4 演題、全身収納型加気圧装置酸素カプセルについて 4 題

平成 27 年度一般口頭発表 6 演題、内訳は低周波療法 2 題、高周波電気療法 2 題、レーザー治療について 1 演題、振動刺激療法について 1 題、ポスター発表、計 1 題電気刺激療法について

平成 28 年度一般口頭発表 7 演題、内訳は介達牽引について 1 題、寒冷療法について 1 題、微弱電流療法について 1 題、低出力レーザー治療について 1 題、超音波療法 3 題ポスター発表 5 演題、内訳は温熱寒冷療法について 2 題、振動刺激療法について 2 題、超音波療法について 1 題

平成 29 年度一般口頭発表 4 演題、内訳はレーザー治療について 2 題、経皮的通電刺激について 1 題、SSP 電気刺激について 1 題、ポスター発表 4 演題、内訳は中周波電気刺激について 2 題、高周波電気刺激について 2 題

平成 30 年度一般口頭発表 5 演題、内訳はマイクロカレント療法 1 題、電気刺激について 2 題、超音波療法について 2 題、ポスター発表 5 演題、内訳は EMS について 1 題、電流療法について 3 題、振動刺激療法について 1 題。であった。

電流療法、中周波電気刺激、高周波電気刺激について周波数帯域を変化させたもの、パルス幅を変化させてものが主にみられた。

また使用された物理療法機器に複合機によるものが多数みられた。

超音波療法については症例、症状に適した 1MHz、3MHz、1.5MHz、750 k Hz 使用方法が報告されている。特に小型化された低出力パルス超音波機器の使用がみられた。

刺激エネルギーにおいて表在刺激から深部に対する物理療法が多々行われている。